

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年8月8日～2016年8月14日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年8月17日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

▼被占領地域の人権状況に関する報告書(10日)

・ジョージア外務省が被占領地域における2016年第2四半期の人権状況に関する報告書を発表。恣意的な拘束、自由な移動に対する制限、財産権や母語で教育を受ける権利の侵害など、深刻な人権侵害が起きていると強調。5月19日に起きた「アブハジア国境警備隊」による住民男性の射殺事件に焦点を当てている。

【南オセチア】

▼南オセチア内の人口調査(11日)

・2015年10月15日から30日にかけて実施された南オセチア内の人口調査の結果が発表された。南オセチアの人口は53,532人。うち男性25,707人、女性27,825人。平均年齢は40.1歳。

・民族別の内訳はオセット人48,146人(89.9%)、ジョージア人3,966人(7.4%)、ロシア人610人(1.1%)。

・ツヒンヴァリの人口は30,432人(全人口の56.8%)。地方の人口はザウ地区(ジョージア国内の行政区分としてはジャヴァ地区、以下同じ)6,567人、ズナウル地区(カレリ地区の一部)4,531人、レニンゴル地区(アハルゴリ地区)4,209人、ツヒンヴァリ地区(ゴリ地区の一部)7,793人。

2. 内政

▼大統領が婚姻に関する規定をめぐる住民投票の実施の請願を拒否(9日)

・婚姻を男女間のものとする規定の是非を問う住民投票の実施に向け、市民グループの請願が大統領に提出されていたが、マルグヴェラシヴィリ大統領は同内容は既に法律で規定されているとして請願を却下。会見で、「マ」大統領は、憲法への規定の記載を求めるならば、国会で審議されねばならないと述べた。

▼ISIL戦闘員に対する禁固刑(9日)

・シリアでISILに加わって戦闘に参加していたとして、2015年11月にトルコから送還され、逮捕された男性に対し、トビリシ市裁判所は12年の禁固刑を言い渡した。

▼ゴリ小選挙区の争い(10日)

・10日、ゴリ小選挙区の自由民主主義者党の候補者が立候補を取り消したことを受け、アラサニア同党党首は、自身が同小選挙区で立候補することを発表。「ア」党首は、自由民主主義者党の比例代表名簿の筆頭候補者。

・13日、オクルアシヴィリ元国防相(現・ゴリ市議会議長補佐)がゴリ小選挙区での立候補を表明。

・ゴリ小選挙区では既に、ジョージアの夢・民主ジョージア党からゴリを拠点とするアスファルト製造・道路建設会社社長マクラヒゼ氏、統一国民運動からシダ・カルトリ地方警察の元職員ゴグリゼ氏が立候補している。

▼アバシゼ元アジャラ自治共和国首班に対する有罪判決(11日)

・バトゥミ市裁判所は、イムナゼ・アチャラ自治共和国副首班の殺害、権力濫用などについてアバシゼ元アジャラ自治共和国首班(199年～2004年)の有罪を認め、被告不在のまま15年の禁固刑を言い渡した。「ア」元自治共和国首班は2004年以降ロシアに滞在している。

▼国会議長の発言(12日)

・ブルジャンゼ元国会議長が党首を務める民主運動・統一ジョージア党は、ジョージアがいかなる軍事的ブロックにも所属しないと憲法で規定することを、10月の国会選挙に向けた主な主張としている。同党は、改憲手続きの開始に向け、国会に署名収集の承認を請願。

・12日、この動きについて、ウスパシヴィリ国会議長は、法律に則って国会で検討すると述べる一方で、ジョージアの国益に関する重要な問題を政治的な得点稼ぎに利用するのは許されないとし、自ら対案として、「欧州・大西洋地域の民主主義国の安全保障・協力システムにおける正式な地位の獲得」を追求すると憲法の前文に加えることを国会に提案すると述べた。

▼中道主義者党の選挙広告(13日)

・13日、TV第1チャンネルが、国内でのロシアの軍事基地の合法化を主張する中道主義者党(Centrists)の選挙広告を放送。しかし、視聴者からの激しい抗議を受け、第1チャンネルを運営する公共放送局は、「国家主権に反するメッセージを含み、違憲の恐れがあるため」として、同党の選挙広告の放送を中止した。「ク」首相は公共放送局の決定を歓迎する声明を発表。

・14日、与党ジョージアの夢・民主ジョージア党は、中道主義者党の選挙への参加の取り消しを求めて、憲法裁判所に提訴すると発表。